

〔易林本節用集器下財スダレ〕簾箱

〔和爾雅器五〕簾スダレ並箱同

〔藻鹽草居六所〕簾

たまだれふ心也またたのこすだれのまとをしなめなどよめりふくすのまよりかよ伊よすいよすだれみすこすこのと外也戸にこすだれまのすだれあしすだれ玉すだれこのきけきききとはしけ云こもすだれ青葉のすだれ翡翠のすだれをかくる也と云々白きすだれうちなびきあふ日もすすだれにこすのまとほし透也こすのまとほしとりたる也玉だすとばかりもいへり後撰詞に也すだれのうごかし玉すだれのあみめのま玉すたれていのたえま玉すだれすける心拾遺すけたるいよすだれかけさげられてあしすだれ世にすけたるなにはの女

〔日本釋名雜下器〕簾 すはすく也竹をあみて其あいだすけりたれはのきにかけて下へたれさがる也みすは御簾也こすは小簾なりこまかなるすだれなり

〔東雅器八〕簾スダレ 倭名鈔に野王云簾は編竹帳也讀てスダレといふと註したり古の俗凡竹

をもて作れるものをスといふてスクといふがことし籠讀タレとは垂也

〔和漢三才圖會三十二〕簾音廉 箔音泊 簿音同 和名須太禮 菟音捷 和名奈波須太禮

釋名云簾也自障爲廉耻也編竹障蔽内外者也

物原云周公作簾

〔萬葉集相四〕額田王思近江天皇智○天作歌一首

君待登吾戀居者我屋戸之簾動之秋風吹動秋風之吹令

〔源氏物語夕四〕この家のかたはらにひがきといふ物あたらしうしてかみははじとみ四五けん

計あげわたしてすだれなどもいとまろうすしげなるにおかしきひたいつきのすきかげあ